

スプレーぎくの防虫ネットを利用した IPM 技術の 現地実証

要約

スプレーぎく栽培で赤色防虫ネットを利用することで、アザミウマ類の密度抑制に高い効果があることが認められた。

また、ネット設置初年目は設置労賃が発生するため、経費の削減は 3.5%であったが、二年目以降は削減効果が期待できる。

○ 展示のねらい

物理的防除資材を活用することで、化学農薬低減技術の効果を実証し、経営的な効果を検証する。

○ 主な成果

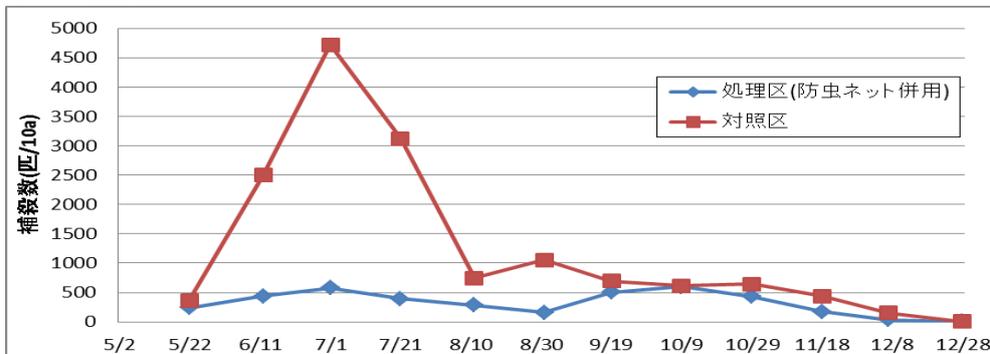


図 1 アザミウマ類の補殺数の推移(10a 当たり)

注意 青色粘着板、黄色粘着板を各 20 枚/10a 設置し補殺数を調査

表 1 経費の比較(10a 当たり)

	薬剤・資材費(円)			労賃(円)		合計	経費合計(円)
	化学農薬	防虫ネット	合計	化学農薬散布	防虫ネット設置		
処理区(防虫ネット併用)	30,350	13,200	43,550	11,400	8,000	19,400	62,950
対照区	49,633	—	49,633	15,600	—	15,600	65,233
処理区/対照区	61.1	—	87.7	73.1	—	124.4	96.5

注意1 試算の期間は防虫ネットを設置した5月2日から、調査終了の12月31日

2.労賃は1,000円/時間で試算

3.防虫ネットの資材費用は耐用年数を3年として試算

4.化学農薬は、アザミウマに登録のある薬剤のみで試算

- ・物理的防除資材は赤色防虫ネットを用いた。
- ・調査期間を通し、処理区(防虫ネット併用)はアザミウマ類を低密度に抑えることができた(図1)。
- ・経費の合計は、処理区が対照区の 96.5%となり 3.5%の経費削減につながった(表1)。二年目以降は防虫ネットの設置労賃がなくなるため、更に経費の削減が期待できる。

○ 今後の方向性

赤色防虫ネットはアザミウマ類の密度抑制に高い効果があることから、普及性はあると考えられる。ただし、防虫ネットだけで完全にアザミウマ類を防ぐことはできないので、発生予察を行い適期に化学農薬を利用し、効率的な防除を行う必要がある。

実施機関：塩谷南那須農業振興事務所経営普及部 実施場所：塩谷町

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315